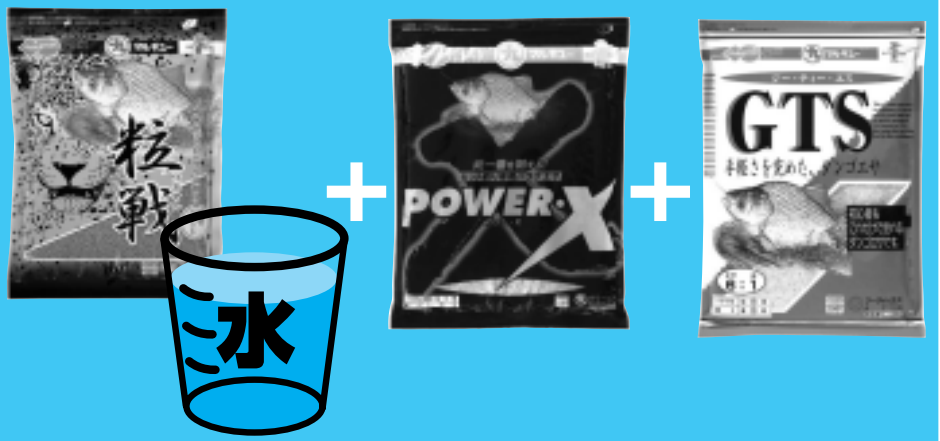
●パワー系パターン

粒戦100cc＋水200cc＋パワー・X400cc＋GTS400cc



●作り方

「粒戦」に水を充分なじませるため「粒戦」に水を入れたら、5分ほど放置する。ここに、「パワー・X」と「GTS」を400ccずつ加えて良くかき混ぜる。

●特徴

水を吸わせた「粒戦」に、麩エサを追い足していくパターン。「パワー・X」を入れることにより、エサが良くバラケるようになる。

●使い方のコツと手直し

良くバラけるエサだが、言い方を変えればエサ持ちが悪くなるということである。そこで、エサ付けだが、

①しっかりと指圧で調節する
②手もみを加えてしっかり付ける
③大きくエサ付けをしてエサを持たせる

この3パターンが基本になる。

このエサを使用するときのウキの選択だが、小ウキを使った場合は、バラケの大きさ、圧などを調節するのに苦労するが、しかし、大きめのウキならば、しっかりとエサを付けることができ、エサ付けに神経を使わなくてもよいので、普段よりも大きめのウキを使用したい。

この時期は、魚に充分な活性があるので、アタリはダイナミックで力強いものに的をしぼりたい。

●通常パターン

特S400cc＋GTS400cc＋水200cc＋スーパーダンゴ200cc

※別ボウルに粒戦100cc+水50ccを作り、半分を合体して使っていく

●作り方

「特S」と「GTS」に水を入れてかき混ぜる。これでエサの芯ができ、そこへ「スーパーダンゴ」を入れることでボソっ気を出す。ここに別作りの「粒戦」を入れて使う。非常に持つエサなので、へたに練ったりしないようにしたい。

●特徴

「特S」を入れたことで、重さがつき、魚が落ち着いてくれるのでタナを安定させられる。エサ持ちが良いので、中尺竿でも充分使えるエサだ。

●使い方のコツと手直し

まずはウキがしっかりとなじむ（深なじみする）ように大きさ、圧を調節していく。時間と共にエサのねばりが出てきたら、エサをバラケさせる方法をとる。

①「粒戦」をどんどん加えていく
②手水で柔らかくしていく

この２つで調節し、反応が良いほうを選んで攻めていこう。ただし深なじみはかならず心がけていくこと。

活性がある時期なのでウキの動きが激しくなってくる。このようなときでもなじみを出して、重さとぬけ具合も加えるために「粒戦細粒」も多用する。

●エサの大きさ

実寸大

●オモリ 実寸大

0.25㎜厚の板オモリ

●くわせエサ

「魚信（あたり）」「彩」「感嘆」「感嘆Ⅱ」「力玉」などを用意しよう。「魚信」は袋の裏書きを見て作るのが良いだろう。ただし、水量については個人差があるので、80〜100ccを目安に作る。

高温に弱いウドン類は、１日使うためにクーラーボックスなどに入れて自参すると安心して使えることも覚えておきたい。また、２種類の硬さのちがうウドンを用意しておくのもひとつの方法だ（午前用と午後用）。

釣るための自分ができる努力のひとつなので、横着せずに用意してみよう。

●くわせエサの使い分け

アワセてもしっかりとハリに付いているような持ちの良さ、へらに違和感を与えない柔らかさ、そして、ダレないようなものが理想的。その代表が「魚信」だ。まずはこれを使ってスタートしてみよう。

食いアタリが少なかったり、時間がかかるようなときは、くわせを変えよう。まず現場ですぐにできる「感嘆」を使ってみる。ちょっと目先を変えてあげるだけでも反応は変わる。同様に「力玉」なども試して、反応をみてみよう。

当然、大きさの変化も大切。めりはりをしっかりとつけた対応は、かならず魚に何らかの反応をだしてくれるはずだ。迷わず実行してみよう。

●釣り方のコツ

まず、この釣りに適したタックルの選択が必要だ。回転よく、思うようにエサを振り込める竿を選び、ウキは、魚の煽りに負けずに立ってくれる大きめのものを使いたい。

活性のある時期のウドンセットなので、空振りをこわがらずに、力強いアタリに的をしぼって積極的に釣っていきたい。

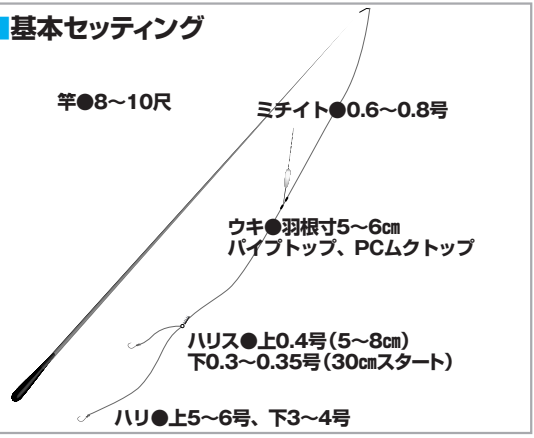
アタリの見極めは、バラケが付いているとき、くわせエサだけになっているとき、どちらがヒット率が良いかを絞っていく。

そのためには、どちらのアタリも出るようなハリスの長さを見つることから始めたい。ハリスの長さは、アタリがほしい時は大きく変化させ、決まりの長さを見つけていくときはこまめにする。このときは３㎝くらいを目安にしよう。

●セッティングの注意点

ミチイトは細めのものを使っていこう。細いラインを使った釣りに自信がない方は、アワセ切れしないように気を付けて練習することも大切。そんなに強くアワセなくても、充分ヒットするはずだ。

特に注意したいのは、ハリスの長さ。上ハリスは５〜８㎝が目安だが、なじみが出やすく、魚にもまれすぎない長さをその日に合わせよう。

また、下ハリスも食いアタリが出て空振りの場合は短くしよう。ただし、短くしすぎて空振りということもあるので、頭のすみに入れておこう。また、オモリ周りはきれいに仕上げたい。トラブルが少なくなるのでしっかりと作ろう。

■基本セッティング